



我が母校は永遠なり

福島東高等学校同窓会長

佐戸川政実

福島県立福島東高等学校同窓会
会長の佐戸川政実です。今年度
も同窓会報をお届けできること
を大変嬉しく思います。日頃よ
り母校ならびに同窓会活動にご
理解とご協力を賜り、心より御
礼申し上げます。

さて、今年は三年に一度の公開文化祭「東桜祭」が開催され、私も一般参加者として足を運びました。校舎に足を踏み入れた瞬間、懐かしさとともに、若々しい熱気にも包まれた空気を肌で感じました。各クラス、委員会、部活動が趣向を凝らした展示や

1年生の皆さん、入学から半年が過ぎ、学校生活にもすっかり馴染んでいることでしょう。新しい友人との出会い、部

在校生の皆さんのが活躍は、窓会としても大きな喜びであり、誇りです。文武両道、運動部も文化部も、県や全国での活躍を新聞紙上で目ににするたびに、我がことのように嬉しく感じています。

唱、演奏、美術作品、模擬店など、どれも生徒たちの創意工夫と情熱を感じられ、まさに「青春の輝き」がそこにありました。多くの保護者の皆様、地域の方々が来場され、母校が地域に根差した存在であることを改めて実感しました。

保護者の皆様、教職員の皆様、
今年はさらに気温の高い夏でした。
生徒の健康管理は大変だつた。

お手本として、将来の目標として、必ずや
将来的に成功する自信を持つて、一歩一歩前に
進んでください。私たち同窓生
も、皆さんの挑戦を心から応援
しています。

を導き、先輩を支える立場にあります。文化祭や体育祭、委員会活動など、様々な場面でリーダーシップを發揮し、学校全体を盛り上げてくれる姿は頼もしく、未来への希望を感じさせてくれます。

活動への参加、授業や行事を通じて、高校生活の楽しさを存分に味わっていることだと思います。

たことだと思います。彼らは口こそ出さないでしようが、皆様方には心の中では感謝していきます。これからも一番の応援団としてサポートをお願いいたします。

ら淨財を募り、支援金を学校にお届けしました。

す。これからも一番の応援団としてサポートをお願いいたします。

さて、卒業生の皆様におかれましては、人生の節目にあたる年齢を迎える方も多いことと思います。20歳の成人、男女の厄年、50歳の節目、還暦など、それぞれの人生の区切りに、ぜひ学年同窓会を開催し、旧友との再会を喜び、思い出を語り合つ

つくり、折に触れSNS上で旧交を温めています。今年は有志でゴルフ同好会を立上げ、二回ゴルフコンペを行いました。和氣藹々、在校時はクラスが違っていても、お互い大人になりゴルフを通じて改めて親交を深めることができました。来年四月にも行いますので、一期生でゴルフをされる方のご連絡をお待ちしております。

過去の同窓会会報の
バックナンバーは同窓
会Webサイトで閲覧
可能です。
下記QRコードを読み
取るか、「福島東高校
同窓会」で検索または
URLを直接入力して
ください。





一桜会 ゴルフコンペ

の人材を育て、地域社会に貢献してきました。その歴史と伝統は、私たち一人ひとりの心の中に生き続けています。そして、これからも在校生、卒業生、教職員、地域の皆様が一体となつて、母校の歩みを支えていくことでしょう。

来るべき五〇周年には仙台や関東など大都市圏に「同窓会支

部」ができることが、現同窓会長として私のささやかな願いであります。

我が母校は永遠なり
福島東高等学校の発展と、皆様のご健勝とご多幸を心より祈
念申し上げます。

福島東高等学校の発展と、皆

様のご健勝とご多幸を心より祈
念申し上げます。

令和6年度 岁入歳出決算書

令和7年度 岁入歳出予算書

歳入金額 4,874,172円
決算金額 3,526,526円
差引残額 1,347,646円

歳入金額 4,956,000円
歳出金額 4,956,000円
差引残額 0円

1. 岁 入

項目	6年度予算額	6年度歳入額	比較増減額	備考
入会金	1,392,000	1,392,000	¥6,000×233人	
会費	1,392,000	1,392,000	0	¥6,000×233人
前年度繰越金	1,351,688	1,351,688	0	
雑収入	112	1,709	▲1,597	利息(¥1,709)
特別会計基金	0	0	0	
東高応援基金	850,000	736,775	113,225	クレジット(¥97,126)・コンビニ(¥389,840) 郵便(¥129,809)・期生(¥120,000)
合計	4,985,800	4,874,172	111,628	

2. 岁 出

項目(科目)	6年度予算額	6年度決算額	比較増減額	備考
総務費	147,000	67,300	79,700	
会議費	100,000	27,000	73,000	役員会旅費、会議室借用費
旅費	10,000	4,000	6,000	全国大会激励金贈呈式、同窓会入会式
需用費	1,000	300		
事務局費	36,000	36,000	0	
総会費	0	0	0	
運営費	0		0	
事業費	420,000	382,064	37,936	
卒業記念品費	190,000	187,264	2,736	卒業証書ホルダー
広告費	150,000	124,840	25,160	野球、サッカー、バスケ、駅伝等の応援広告
サイト運営費	80,000	69,960	10,040	
会報費	680,900	628,430	52,470	
印刷費	600,000	550,550	49,450	会報印刷費
名簿管理費	80,900	77,880	3,020	平成24年度より外部業者へ委託
通信費	1,520,000	1,406,045	113,955	
会報郵送費	1,500,000	1,404,910	95,090	会報発送費
通信費	20,000	1,135	18,865	連絡用はがき通信費
在校生支援費	1,800,000	618,687	1,181,313	
在校生支援事業	1,000,000	618,687	381,313	全国大会激励金、定期演奏会等補助、部活動・委員会支援
公開文化祭後援費	0	0	0	
特別会計事業	800,000	0	800,000	
各種事業積立	400,000	400,000	0	
50周年事業積立	400,000	400,000	0	
特別会計積立	0	0	0	
予備費	17,900	24,000	▲6,100	会費等返金
合計	4,985,800	3,526,526	1,459,274	

*項目科目間の流用を認める。

*項目科目間の流用を認める。

「東高100の改善」

福島東高等学校長 小林寿宣



より本校の教育活動に対してもご支援とご協力をいただき感謝申し上げます。

さて、昨年の同窓会会報では、「東高は今、『変革の時』を迎えています。」と題し、その背景や「学力向上ビジョン」における3つの柱について紹介させていたしました。今回は、現在、取り組んでいる教育活動について、その理念や具体的な取組について紹介させていただきたいと思います。

ます 本校が目指す学校像を
一言で表す言葉として
「Interactive High School」
(対話型高等学校)」
と定めました。これは、生徒と
教員との対話をはじめ、生徒間、
教員間、保護者と教員間などの
対話が、本校の変革をより良い
形で実現させるための根幹を成

一時間の授業に集中して取り組むこと、そして、授業以外の時間における学習の自立、つまり「自学」を生徒一人一人に確立させることで、学力向上を目指しています。具体的な取組は、これまでの七校時目の時間を活用する「生徒との面談」と「自己探究の時間」の取組です。「生徒との面談」は、一年間を通じて生徒と教員の対話の場を設定し、生徒理解を深めることで、学習指導、進路指導、生徒のつまづきや悩みの解消など、生徒

まず、紹介しますのは「生徒面談」です。ご存知のように、本校は今年度の一年生から、一日の時間割を六校時までとしており、これに対して、一時間、

あえてこのような言葉を掲げたのは、福島東高等学校を、今後も地域の進学校として発展させ、県内外に誇れる学校にするという決意を表したいと考えたからです。さらに、「生徒面談」、「探究」、「鍛求（たんきゅう）」の3本柱を定め、それぞれ具体的な取組を行うこととしました。

改善】
寺学校長 小林寿宣
すと考えたからです。そして、

次に 紹介しますのは 「探究の時間」 です。探究活動は、「総合的な探究の時間」として、全学年において週一時間を組み込んでおり、必要に応じて LHR と併せて二時間連続の活動ができるよう配慮して実施しています。今年度は、これまで何度も本校で講演をいただいて本校との縁も深い、原発事故の国会事故調査委員も務めた石橋哲氏をアドバイザーに招へいし、探究活動のレベルアップを目指して取り組んでおります。また、県教育委

年目ですので、「授業を中心に学びのサイクルを回す」ことや「自学」の定着を目指し、今後、検証し、改善を加えながら取り組んでまいります。

「人一人は最適化したアドバイスをしていこうとするもので、また、「自己探究の時間」は面談と同時に実施しているもので、七校時目の時間帯に、授業の予習・復習、授業で出された課題への取組、読書などの時間として活用しています。生徒は、教室の他、廊下に設置された学習机、図書館など、学習場所を選ぶことができます。なお、この七校時目の時間は、放課後になりますが、殆どの生徒は校内で学習に取り組んでいます。これらの取組は、まだ一

「たんきょう」です「鉛求」は
造語ですので、辞書には無い言
葉ですが、本校の教育活動の「鍛
える」部分を表すとともに、「自
ら鍛えて、たくましく成長して
ほしい。」という願いを込めた言
葉です。今、教育界では、意欲、
たくましさ、粘り強さなど、数
字で表しにくい能力である「非
認知能力」が、重要視されてい
ます。ご存知のように、本校は
部活動に力を入れており、一定
の集団で培われる経験は、協調
性や忍耐力などを鍛える場に

びができていましたし、訪問した小・中学校からも感謝の言葉をいただきなど、高く評価していただいています。

員会の指定を受け 本校の探究活動と関連付けて行つて いる「教育コース」については、福島市との連携や県北教育事務所の協力をいただき、活動内容も大きく飛躍しました。これまで行つてきた、小・中学校の教員研修会への参加に加え、生徒が一日小・中学校に訪問し、できる範囲のお手伝いをしながら、児童と交流したり、教員の働く姿を観察したり、学校という働く場所を体験する活動を行いました。生徒たちは積極的に生徒・児童と交流し、充実した学

り組んでいる「私たちの挑戦」の一部をご紹介させていただきました。同窓会の皆様方のご理解をいただきますとともに、一層の応援を賜れば幸いでござります。

さに今、新しい伝統がつくられます。本校の先生方とは、県内外から視察に来るような先進的な東高を創造していくことを話しています。

なっています。また、生徒会活動も近年盛んになっている他、スポーツ大会や文化祭など実際に学ぶ場も豊富に準備しているため、生徒たちは本校で生活をしているだけではなく、自然に非認知能力を鍛えられる、そのような環境が本校には整っています。

題名に「東高100の改善」としましたとおり、本校は新しい時代の進学校を目指し、様々な改善や取組を行っています。

「育てよう」今日は明日の歴史、新しい伝統」とは、本校の校歌の一節です。東高では、ま



進路指導主事
遠藤 順一

令和六年度の国公立大学合格者は七十四名でした。主な大学への合格者数は、福島大学二十名、山形大学九名、宇都宮大学七名、宮城教育大学三名、福島県立医科大学十名、宮城大学三名、会津大学三名、高崎経済大学三名でした。また、国公立大学中後期試験では、最後まで学習を継続した成果が八名合格という結果につながりました。私立大学に関しては、二百五十四名(延べ人数)が合格しました。昨年同様、国公立大学・私立大学の推薦入試(学校推薦型・総合型選抜)に多くの生徒が挑戦しました。

「大学入試センター試験」から「大学入学共通テスト」に移行して五年が経過しました。また、二千十七年三月に告示された新学習指導要領は、昨年の卒業生(二千二十二年度の高校入学生)から導入され、プログラミングや情報セキュリティの基礎などを学ぶ「情報I」が全学年で必修科目となつて4年目となりました。昭和から平成、令和へと時代は移り、教育に求められる

者も七十四名でした。主な大学への合格者数は、福島大学二十名、山形大学九名、宇都宮大学七名、宮城教育大学三名、福島県立医科大学十名、宮城大学三名、会津大学三名、高崎経済大学三名でした。また、国公立大学中後期試験では、最後まで学習を継続した成果が八名合格という結果につながりました。私立大学に関しては、二百五十四名(延べ人数)が合格しました。

(表) 大学別合格者数(令和6・5・4年度入試)

	大学名	令和6年度生	令和5年度生	令和4年度生
国 公 立 大 学	北見工業大	0	0	1
	北海道教育大(函館)	0	0	2
	弘前大	1	1	1
	岩手大	1	4	0
	東北大	0	1	0
	宮城教育大	3	6	3
	秋田大	2	3	2
	山形大	9	13	9
	福島大	20	24	28
	茨城大	2	2	3
	筑波大	0	1	1
	宇都宮大	7	4	2
	埼玉大	0	1	1
	新潟大	2	10	4
	山梨大	1	0	0
	信州大	0	1	0
	島根大	0	1	0
	釧路公立大	0	0	1
	青森公立大	0	0	1
	岩手県立大	0	3	1
	宮城大	3	2	1
	秋田県立大	0	1	1
	山保健医療大	1	1	0
	米沢栄養大	1	0	0
	会津大	3	1	1
	福島県立医大	10	7	12
	前橋工科大	0	0	1
	新潟県立大	2	1	0
	高崎経済大	3	4	1
	群馬県女子大	0	1	0
長岡造形大	0	0	1	
都留文科大	2	4	1	
長野大	0	0	4	
福井県立大	1	0	0	
静岡文芸大	0	1	0	
鹿屋体育大	0	0	1	
計	74	98	84	

※令和4年度卒業より6クラス

	大学名	令和6年度生	令和5年度生	令和4年度生
私 立 大 学	仙台大	3	1	2
	東北学院大	49	62	46
	東北福祉大	10	26	33
	東北医薬科大	1	5	1
	宮城学院女子大	4	5	7
	東北芸術工科大	0	1	2
	国際医療福祉大	8	5	8
	白鷗大	5	16	12
	獨協大	6	5	2
	文教大	2	3	1
	女子栄養大	0	1	0
	神田外語大	5	1	3
	淑徳大	0	3	1
	青山学院大	0	2	1
	亞細亞大	1	1	2
	北里大	2	1	1
	国士館大	1	0	2
	駒澤大	5	0	1
	専修大	4	3	0
	大東文化大	8	7	1
	玉川大	1	1	1
	中央大	2	1	1
	帝京大	2	2	3
	東海大	5	19	14
	東京工科大	0	1	0
	東京農業大	1	3	2
	東洋大	7	6	8
	日本大	19	26	16
	早稲田大	1	1	1
	法政大	1	1	1
明治大	3	2	2	
明治学院大	1	1	0	
神奈川大	8	1	4	
新潟医療福祉大	3	1	8	
同志社大	2	2	2	
その他	84	91	82	
計	254	307	271	

「主体的学習に取り組む態度

30点未満だと「赤点」という認識をされていると思いますが、現行評価では30点未満でも、赤点ではない場合があるのです。 (本校では「C C B」と「C C C」が赤点です)

1年次の1学期、初めて現行評価システムにて成績を通知した際、変換ミス等で、通知表の記載に誤りが見つかり、学年団と教務・管理職すべてでチェックし直し、通知した表記に誤りの見つかった生徒と保護者に、お詫びの連絡を入れたことがほろ苦い思い出として残っています。

【共通テストの変更】

共通テストの大きな変容の初年度であったのも四十三期生の特徴です。主な変更点では、前述の「情報」の受験(大学によつて点数化するかの判断は分かれました)。その他にも、国語(「実用文」の出題と10分増)、数学(数学Ⅱ・数学Ⅱ・数学B)に「数学C」が加わり10分増)、英語(「リーディング」と科目名が変更)、地歴(科目選択の変更)込み入っていますので詳細は控

えます)等がありました。大学入試センターから事前に提示された試行問題はあるものの、どのような問題になるのかわからぬ不安を抱えての共通テストチャレンジでした。四十三期生には、ピンチをチャンスに変えるべく、共通テストに向けた取り組みを行つておりましたが、結果は可もなく不可もなく、一人一人の浮き沈みはあつたものの、全体でもう少し得点しかかつたという結果に終わりました。

二 人 一 台 端 末

の、全体でもう少し得点したかったという結果に終わりました。

【一人一台端末】

文科省からの指導による、一人一台端末が導入されたことも四十三期生からでした。助成はあるものの、保護者への負担増もあり、せっかく購入した端末を利用した授業ができないも

学校生活と進路実現

進路実現に向けたものとして、四十三期では、試みとして課題を多く与えることをせず、なるべく生徒が自主的に取り組んでもらおうとしていました。前述の三観点による評価や共通テストの変更等、前例がない状態に対応するには、教えられたことをこなすのではなく、自ら考えて実践していくこそ実力が身につくと考えたからです。ですが、切羽詰まらないと重い腰を上げない場合には変わりありませんでした。スイッチが入つてからの四十三期生の姿勢は、過去の先輩方に優るとも劣らないものでした。困難を力でねじ伏せようという者が多數見受けられました。それが、自分が受けたい受験先を変えないという強い意志となり、少々の困難をものともせずチャレンジした結果、国公立前期で返り討ちにあつたという結果となつて残りました。ですが、四十三期の担任団は、そのチャレンジを良いとしていたので「惜しかった」とは思つても、がつかりはしていません。次のステージでこの経験を充分活かしてほしいものです。



担任司

四十三期は、主任が梅宮。副主任が白井健郎。真鍋久美子、郡司仁美・和田真衣・三瓶史絵の女性陣による学年でした。副担任は、1年次朝倉昭博・長井杏美（産休後は二瓶晃一）、2年次は阿部善重・渡部純、3年次は渡部純・佐藤直子の各先生方でした。笑いが絶えず、様々な事をオープニングにし、全員で四十五期の生徒たちに向き合つてきました。同窓会報ではあります
が、紙面を借りて各先生方に感謝の意を表します。

以上が、四十三期の総括です。四十三期生も同窓生になりました。福島東高校の益々の発展を祈念し、結びいたします。

伝統の継承

テニス部顧問 梅宮 康弘

昨年に引き続き、全国大会出場報告をさせて頂く喜びを噛み締めおります。また、同窓会様には過分なご支援を賜りましたことに、深く感謝申し上げます。

まず、前年度末、大正製薬リポビタン第47回全国選抜高校テニス大会（団体戦3／21～25博多の森テニス競技場、個人戦3／22～26春日公園テニスコート）に出席してきました。団体戦では、前年度ベスト4の強豪麗澤瑞浪高校（岐阜）と対戦しました。善戦しましたが、0－5での敗退。全国の強豪の力を肌で感じました。個人戦は本校No.1登録の加藤柊羽が登録し、共愛学園（群馬）に2－8で敗退しました。技量に差はないのですが、試合の進め方やショットの選択等で少し劣っていました。本校生が全国で勝つために必要な部分と感じました。

そして団体戦で2年連続3回目の出場となつた今年の全国高校総合体育大会は、広島県福山市竹ノ端運動公園庭球場・尾道

東北・全国大会出場報告

市こざかなんんスポーツパークひんごを会場に、7月29日～31日団体の部、8月1日～4日個人の部が開催されました。個人

戦シングルス（菊地駿太）は、昭和61年国分君、平成25年菅野君、同29年渡辺祐希君、令和6年佐藤琉成君に続き本校5人

の出場。個人戦ダブルス（加藤柊羽・太田泉）は令和6年の佐藤琉成・市川偉大ペアに続き、本校生として2ペア目の出場となります。

団体1回戦の相手は北海道代表の海星学院高校。全国大会でも活躍している3年生2人のいる強敵です。2面同時展開で始まりました。ダブルスとシングルス1の試合。ダブルスは、序盤お互いに堅さが見られましたが、福島県大会ダブルスを制した加藤柊羽（3年）太田泉（3年）ペアが、相手の強打を封じて徐々に自分たちの有利な展開に持ち込み、相手のミスを誘発して見事8－3で勝利。昨年に引き続きインナーハイでの団体戦における本校の勝利をもぎ取りました。シングルス1の菊地駿太（1年）は、相手の強打を速いテンポで返球し、徐々に相手を押

し込むスタイルのテニスが持味ですが、全国でも上位に進む相手No.1の威力・精度とも高い

ストロークに対応しきれず1－8で敗退。まだ1年生で、高校の全国大会初出場ですから、今後につなげることができる敗退でした。シングルス2はこれも1年生の人見竜聖。バックハンドストロークが武器でクレバーナテニスが信条で、強敵相手にリードされては追いつく粘りの

テニスをしていましたが、終盤、人見のテニスの特徴を捉えた相手選手が自分の良さを少しずつ発揮し4－8で敗退。悔しさから涙を流した人見でしたが、菊地同様きっと次年度満面の笑みを見せてくれるものと信じています。敗退はしたものの、全国

善戦及ばず1－6での敗退とな

りました。前述の通り良い経験を今後につなげてほしいと思いります。個人戦ダブルス1回戦は、これも全国大会常連の鹿児島県鳳凰高校の3年生ペア。団体戦では勝利をもぎ取りましたが、個人戦に登場してくる選手はやはりパワー・テクニックとも高いレベルにあり、相手選手の威力十分のショットにアジャストできないままゲームが進んでいきました。何とか打開しようとするショットも、相手の威力に押されているため、少しずつずれてのミスが続き、悔しい0－6での敗退でした。加藤・

太田ともに高校生最後の大会で、強い思いで臨んだ試合でしたので、ショックも大きかったです。ですが、この経験を糧として、次のステージに進んでほしいもので、シングルスも大きかつたかという悔いは残りますが、出場した選手たちは全力で

大会でも、十分戦えることを見てくれた試合でした。

個人戦シングルス1回戦は、

全国大会常連校の四日市工業高校の1年生選手。強者がひしめく中1年生で全国大会に出場することは並大抵ではないはずで

精度ともに高く、菊地もポイントは所々取得できるものの、相手のディフェンス力の高さもあり、確実に崩すまでは至らず、



優勝した八島柊人（1年）が、第48回全国選抜高校テニス大会の個人戦に出場します。

次年度も同窓会の皆さんに良い報告ができるよう、全国レベルに自分を置くことができるよう精進し、新しい伝統を継承していってほしいと思います。

七転び八起き

陸上部顧問
馬場
太

今年度、陸上競技部の上位大
会には、6月東北インターハイ
(青森県青森市)に3年生・佐藤
華音(女子400mH決勝7
位)2年生・齊藤周真(男子1
10mH準決勝進出)1年生・
伊藤大葵(男子800m準決勝
進出)女子1600mリレー(2



6月 東北高等学校陸上競技選手権大会(青森県青森市)

6月のインターハイ女子マイルリレーの様子を主にご報告し、どう思います。各選手は好調を維持したまま現地青森県入りし、その流れで予選も余裕を持って通過…する予定でした。予選レースで先頭集団や後方を走っていたアンカーゾ藤が残り80m付近で転倒。なんとかゴールまで走ってくれましたが、予選通過は絶望的。ゴール後はバトンを持ったまま涙が止まらない様子。リーメンバーの動搖は容易に想像ができましたので、残りの組のレースも見ずに私はスタンドから控えテ

トに戻りました。ただただ、けががひどくなればいいなと思うばかりでしたが、幸いにも佐藤は軽症で、翌日の個人種目(400mH)も出場可能と判断されました。他の選手たちも何とか次のレースに向かおうと準備をしている姿が見え、その甲斐もあり、タイム順で準決勝に進むことになりました。彼女たちは短時間で感情が激しく乱高下しながらも、その時にとるべき最善の行動を必死になつて考えたのではないかと思います。普段の生活や練習への取り組み姿勢がまさに試されるレースでした。単に技術を教えるのではなく、自ら考えて行動する力がどれほど大切なのか、身にしみて考えさせられました。とはいっても、その後佐藤が出場した女子400mHは予定どおり決勝へ進みましたが、広島インターハイへあとわずかに迫る7位という結果でした。やはり一にも二にも、勝負に徹する心と体を十分に準備させることは、指導者たちが沸々とこみ上げた大会になりました。ベストを尽くし、インターハイへの切符を手にする喜びを、やはり選手に体験さ



10月 U18陸上競技大会(三重県伊勢市)



女子リレーメンバー



子1500m)、U18日本選手権(三重県伊勢市)に2年生・齊藤周真(男子110mJH)が出場しました。各大会において選手はベストを尽しましたが、残念ながら広島インターハイ、滋賀国民スポーツ大会、そして昨年出場を果たした東北高校駅伝競走大会には出場することは

令和7年度全国高等学校総合文化祭書道部門（かがわ大会）

出場報告並びに

今年度の活動成果

書道部顧問 郡司 仁美



令和7年度全国高等学校総合文化祭書道部門
(かがわ大会) 2年 武田明香里「臨蘭亭序」



作品意図カード



合評会の様子

代表の生徒たちと親睦を深め、情報交換をす

その他、今年度の活動成果としましては、第44回福島県高等学校総合文化祭書道展で2年の武田明香里が大賞を受賞し、令

賞し、最優秀賞として福島県知事賞を頂くことがで

きました。今年度は特に個々の作品の更なるレベルアップが見られ、第49回福島県書道連盟展で

も、3年の佐藤歌音が大賞を受

えながら、自身の書作品の質を高めていける活動を目標に、引き続き毎日の練習に取り組んでいきたいと思います。

最後になりましたが、日々の活動に対するご理解やご協力に感謝いたします。全国総文祭への参加にあたりましては、同窓会から励ましのお言葉と多大な激励金をいただきまして心より感謝申し上げますとともに、今後もご支援くださいますようお願いいたします。

令和7年7月28日～29日、岐阜県で開催された全国高等学校総合文化祭の書道部門に、2年生の武田明香里が福島県代表として出場してまいりました。武田は中国東晋時代の書家王羲之の行書の古典『蘭亭序』に魅了され、毎日熱心に探究してきました。横二尺(60cm)×縦八

作品等、300点の作品が陳列されており、紙や墨までこだわった表現力の豊かな作品で溢れていました。全国レベルの書作品の質の高さは勿論のこと、

作品制作意図カードからは各自の思いが見て取れ、感謝の銘を受けました。交流会では各県

講評会では、講師の先生から「行書の特徴を理解し構成と配字を工夫し気脈と余白に配慮した素晴らしい作品である」とのお褒めの言葉をいただくことができました。

その他、今年度の活動成果としましては、第44回福島県高等学校総合文化祭書道展で2年の武田明香里が大賞を受賞し、令

川県坂出市立体育馆でした。会場には、楷書・行書・草書・隸書・篆書の漢字作品、また仮名作品等、300点の作品が陳列されており、紙や墨までこだわった表現力の豊かな作品で溢れていました。全国総文の展覧会会場は香川県坂出市立体育馆でした。会場には、楷書・行書・草書・隸書・篆書の漢字作品、また仮名

第44回福島県高等学校総合文化祭書道展
大賞 2年 武田明香里 「臨伊都内親王頤文」



第44回福島県高等学校総合文化祭書道展
奨励賞 2年 佐藤穂泉 「臨孝經」



今後も書の本質や魅力を考

今後も書の本質や魅力を考

第49回福島県書道連盟展
大賞 3年 佐藤歌音 「臨魏靈藏造像記」

令和7年度 部活動報告

令和7年12月15日

東高同窓会会報

紙面の都合上、地区大会優勝、県大会以上の結果を掲載しております。地区大会も含めた全結果は福島東高校のホームページに掲載いたします。

●運動部

野球部

日

1回戦 対小高産業技術

2回戦 対日大東北

3回戦 対相馬連合

4回戦 対福島成蹊

5回戦 対尚志セカンド

6回戦 対郡山

7回戦 対ふたば未来学園

8回戦 対八巻憂羽

9回戦 対相馬

10回戦 対聖光学院

11回戦 対日大東北

12回戦 対白河実業

13回戦 対聖光学院

14回戦 対日大東北

15回戦 対日大東北

16回戦 対日大東北

17回戦 対日大東北

18回戦 対日大東北

19回戦 対日大東北

20回戦 対日大東北

21回戦 対日大東北

22回戦 対日大東北

23回戦 対日大東北

24回戦 対日大東北

25回戦 対日大東北

26回戦 対日大東北

27回戦 対日大東北

28回戦 対日大東北

29回戦 対日大東北

30回戦 対日大東北

31回戦 対日大東北

32回戦 対日大東北

33回戦 対日大東北

34回戦 対日大東北

35回戦 対日大東北

36回戦 対日大東北

37回戦 対日大東北

38回戦 対日大東北

39回戦 対日大東北

40回戦 対日大東北

41回戦 対日大東北

42回戦 対日大東北

43回戦 対日大東北

44回戦 対日大東北

45回戦 対日大東北

46回戦 対日大東北

47回戦 対日大東北

48回戦 対日大東北

49回戦 対日大東北

50回戦 対日大東北

51回戦 対日大東北

52回戦 対日大東北

53回戦 対日大東北

54回戦 対日大東北

55回戦 対日大東北

56回戦 対日大東北

57回戦 対日大東北

58回戦 対日大東北

59回戦 対日大東北

60回戦 対日大東北

61回戦 対日大東北

62回戦 対日大東北

63回戦 対日大東北

64回戦 対日大東北

65回戦 対日大東北

66回戦 対日大東北

67回戦 対日大東北

68回戦 対日大東北

69回戦 対日大東北

70回戦 対日大東北

71回戦 対日大東北

72回戦 対日大東北

73回戦 対日大東北

74回戦 対日大東北

75回戦 対日大東北

76回戦 対日大東北

77回戦 対日大東北

78回戦 対日大東北

79回戦 対日大東北

80回戦 対日大東北

81回戦 対日大東北

82回戦 対日大東北

83回戦 対日大東北

84回戦 対日大東北

85回戦 対日大東北

86回戦 対日大東北

87回戦 対日大東北

88回戦 対日大東北

89回戦 対日大東北

90回戦 対日大東北

91回戦 対日大東北

92回戦 対日大東北

93回戦 対日大東北

94回戦 対日大東北

95回戦 対日大東北

96回戦 対日大東北

97回戦 対日大東北

98回戦 対日大東北

99回戦 対日大東北

100回戦 対日大東北

101回戦 対日大東北

102回戦 対日大東北

103回戦 対日大東北

104回戦 対日大東北

105回戦 対日大東北

106回戦 対日大東北

107回戦 対日大東北

108回戦 対日大東北

109回戦 対日大東北

110回戦 対日大東北

111回戦 対日大東北

112回戦 対日大東北

113回戦 対日大東北

114回戦 対日大東北

115回戦 対日大東北

116回戦 対日大東北

117回戦 対日大東北

118回戦 対日大東北

119回戦 対日大東北

120回戦 対日大東北

121回戦 対日大東北

122回戦 対日大東北

123回戦 対日大東北

124回戦 対日大東北

125回戦 対日大東北

126回戦 対日大東北

127回戦 対日大東北

128回戦 対日大東北

129回戦 対日大東北

130回戦 対日大東北

131回戦 対日大東北

132回戦 対日大東北

133回戦 対日大東北

134回戦 対日大東北

135回戦 対日大東北

136回戦 対日大東北

137回戦 対日大東北

138回戦 対日大東北

139回戦 対日大東北

140回戦 対日大東北

141回戦 対日大東北

142回戦 対日大東北

143回戦 対日大東北

144回戦 対日大東北

145回戦 対日大東北

146回戦 対日大東北

147回戦 対日大東北

148回戦 対日大東北

149回戦 対日大東北

150回戦 対日大東北

151回戦 対日大東北

152回戦 対日大東北

153回戦 対日大東北

154回戦 対日大東北

155回戦 対日大東北

156回戦 対日大東北

157回戦 対日大東北

158回戦 対日大東北

159回戦 対日大東北

160回戦 対日大東北

161回戦 対日大東北

162回戦 対日大東北

163回戦 対日大東北

164回戦 対日大東北

165回戦 対日大東北

166回戦 対日大東北

167回戦 対日大東北

168回戦 対日大東北

169回戦 対日大東北

170回戦 対日大東北

171回戦 対日大東北

172回戦 対日大東北

173回戦 対日大東北

174回戦 対日大東北

175回戦 対日大東北

176回戦 対日大東北

177回戦 対日大東北

178回戦 対日大東北

179回戦 対日大東北

180回戦 対日大東北

181回戦 対日大東北

182回戦 対日大東北

183回戦 対日大東北

184回戦 対日大東北

185回戦 対日大東北

186回戦 対日大東北

187回戦 対日大東北

188回戦 対日大東北

189回戦 対日大東北

190回戦 対日大東北

191回戦 対日大東北

192回戦 対日大東北

193回戦 対日大東北

194回戦 対日大東北

195回戦 対日大東北

196回戦 対日大東北

197回戦 対日大東北

198回戦 対日大東北

199回戦 対日大東北

200回戦 対日大東北

201回戦 対日大東北

202回戦 対日大東北

203回戦 対日大東北

204回戦 対日大東北

205回戦 対日大東北

206回戦 対日大東北

207回戦 対日大東北

208回戦 対日大東北

209回戦 対日大東北

210回戦 対日大東北

211回戦 対日大東北

212回戦 対日大東北

213回戦 対日大東北

214回戦 対日大東北

215回戦 対日大東北

216回戦 対日大東北

217回戦 対日大東北

218回戦 対日大東北

219回戦 対日大東北

220回戦 対日大東北

221回戦 対日大東北

222回戦 対日大東北

223回戦 対日大東北

224回戦 対日大東北

225回戦 対日大東北

226回戦 対日大東北

227回戦 対日大東北

228回戦 対日大東北

229回戦 対日大東北

230回戦 対日大東北

231回戦 対日大東北

232回戦 対日大東北

233回戦 対日大東北

234回戦 対日大東北

235回戦 対日大東北

236回戦 対日大東北

237回戦 対日大東北

238回戦 対日大東北

239回戦 対日大東北

240回戦 対日大東北

241回戦 対日大東北

242回戦 対日大東北

243回戦 対日大東北

244回戦 対日大東北

245回戦 対日大東北

246回戦 対日大東北

247回戦 対日大東北

248回戦 対日大東北

249回戦 対日大東北

250回戦 対日大東北

251回戦 対日大東北

252回戦 対日大東北

253回戦 対日大東北

254回戦 対日大東北

255回戦 対日大東北

256回戦 対日大東北

257回戦 対日大東北

258回戦 対日大東北

259回戦 対日大東北

260回戦 対日大東北

261回戦 対日大東北

262回戦 対日大東北

263回戦 対日大東北

264回戦 対日大東北

265回戦 対日大東北

266回戦 対日大東北

267回戦 対日大東北

268回戦 対日大東北

269回戦 対日大東北

270回戦 対日大東北

271回戦 対日大東北

272回戦 対日大東北

273回戦 対日大東北

274回戦 対日大東北

275回戦 対日大東北

276回戦 対日大東北

277回戦 対日大東北

278回戦 対日大東北

279回戦 対日大東北

280回戦 対日大東北

281回戦 対日大東北

282回戦 対日大東北

283回戦 対日大東北

284回戦 対日大東北

285回戦 対日大東北

286回戦 対日大東北

287回戦 対日大東北

令和7年9月5日(金)～8日	男子	100m	走幅跳	走高跳	400m	110m	5000m	1500m	800m	400m	200m	100m	男子	100m	走幅跳	走高跳	400m	300m	5000m	A300m	A3000m
(月)	競技場	予選	予選	予選	H	H	H	H	予選	予選	予選	予選	競技場	予選	予選	予選	H	H	H	5位	5位
(月)	郡山ヒロセ開成山陸上	予選	予選	予選	7位	予選	予選	予選	予選	予選	予選	予選	競技場	予選	予選	予選	予選	予選	予選	小野莉菜	大宮怜禾
周真・伊藤大葵	安田啓人・芳賀洸太・齋藤	予選	予選	予選	予選	予選	予選	予選	予選	予選	予選	予選	競技場	予選	予選	予選	予選	予選	予選	佐藤華音	山田美桜
女子	小野莉菜	B決4位	予選	予選	予選	予選	予選	予選	予選	予選	予選	予選	競技場	予選	予選	予選	予選	予選	予選	大宮怜禾	山田美桜

▼第19回U18陸上競技大会	3000m	予選	森香乃音
令和7年10月17日(金)～19日	m	出場	小野莉菜
(日) 三重交通Gスポーツ伊勢	m	出場	森香乃音
勢陸上競技場(三重原伊勢市)			
男子			
110mJH	予選	齋藤周真	
令和7年度 福島県高等学校			
駅伝競走大会			
令和7年10月23日(木)		猪苗	
代町特設コース			
男子11位	※全24チーム		
	(オーブン4名)		
森 彩隼・古川貴琉・森 大			
隼・石川龍誠・橋内結万・			
黒澤颯介・伊藤大葵			
女子8位	※全16チーム		
	(オーブン2名)		
山田美桜・森香乃音・森 恋			
彩・大宮怜禾・小野莉奈			
会バスケットボール競技(6)			
／1)			
1回戦			
福島東97	62	いわき光洋	
2回戦			
福島東46	89	日大東北	
会バスケットボール競技(7)			
／5～7／6)			
1回戦			
福島東80	59	昌平	
2回戦			

▼第71回福島県高等学校体育大会バスケットボール選手権大会
福島東61—71昌平

▼第62回福島県高等学校バスケットボール選手権大会
福島東52—98北芝電機

3回戦

福島東55—47会津北嶺

バレー部男子

▼第71回福島県高等学校体育大会バスケットボール競技（6／1）

1回戦 福島東71—54相馬総合

2回戦 福島東56—82磐城一

▼第78回福島県総合スポーツ大会バスケットボール競技（7／5）

1回戦 福島東47—63いわき光洋

▼第62回福島県高等学校バスケットボール選手権大会
福島東57—104会津

会バレーボール競技少年の部
県大会

1回戦 対田村 2—0
(25—18、25—15)

2回戦 対郡山北工業
0—2 (7—25、20—25)

▼第78回福島県総合スポーツ大会バスケットボール競技少年の部
会バレーボール競技少年の部
県大会

1回戦 対会津 0—2
(20—25、11—25)

2回戦 対郡山北工業
0—2 (7—25、20—25)

▼第71回福島県高等学校体育大会バレーボール競技

会バレーボール競技

2回戦 福島東2—0葵

1回戦 福島東0—2郡山女大附

▼第78回福島県総合スポーツ大会バレーボール競技少年の部県大会

1回戦 福島東2—0喜多方

2回戦 福島東0—2原町

3位

テニス部

▼第42回福島県春季ジュニアダブルステニス選手権大会

U16男子ダブルス／1位 人見竜聖・(他校生)ペア (東北大会出場)

U18男子ダブルス／2位 加藤柊羽・太田泉ペア (東北大会出場)

島貫夏成・黒津星斗ペア

▼第42回福島県春季ジュニアシングルステニス選手権大会

U16男子シングルス 1位 人見竜聖
2位 菊地駿太
3位 八島柊人 (以上東北大会出場)

U18男子シングルス 2位 島貫夏成

3位	加藤柊羽 (以上東北大会出場)
6位	太田 泉 U18女子シングルス
3位	田村優歩 (東北大会出場)
会県北地区大会(5/7~9)	インテックテニスガーデン
男子団体／1位	男子シングルス
1位 菊地駿太	男子ダブルス／1位
島貫夏成・人見竜聖ペア	女子ダブルス／1位
女子団体／1位	女子シングルス
1位 田村優歩	田村優歩・菅野結菜ペア
男子団体	第71回福島県高等学校体育大
2回戦 3-0 若松商業	会県大会(5/30~6/1)
3回戦 2-0 いわき湯本	会津総合運動公園
準決勝 2-0 清陵情報	
決勝 2-0 磐城	
1位	
(全国大会・東北大会出場)	
男子個人シングルス	
2位 菊地駿太	
(全国大会・東北大会出場)	
3位 人見竜聖	
(東北大会出場)	
ベスト8	
加藤柊羽、島貫夏成	
男子個人ダブルス／1位	

島貫夏成・人見竜聖ペア	1回戦 2—1 いわき湯本
女子団体	2回戦 2—0 福島成蹊
準決勝 2—1 日大東北	決勝 0—2 磐城
2位 (東北大会出場)	3位 田村優歩
女子個人シングルス	(東北大会出場)
男子団体	女子個人ダブルス / 3位
1回戦 3—0 聖靈 (青森)	田村優歩・菅野結菜ペア
2回戦 2—0 東北学院	第66回東北高校テニス選手権 大会 (6/19-22)
第3位	男子・宮城県総合運動公園、 女子・仙台市川内庭球場
男子個人戦シングルス	男子団体
菊地駿太	1回戦 3—0 聖靈 (青森)
人見竜聖	2回戦 2—0 東北学院
菊地駿太	準決勝 0—2 岩手 (岩手)
1回戦 6—2 岩手	2回戦 5—7 山形南
2回戦 5—7 山形南	第3位
男子個人戦ダブルス	男子個人戦シングルス
加藤柊羽・太田泉ペア	菊地駿太
1回戦 5—7 青森山田	人見竜聖
菊地駿太・八島柊人ペア	菊地駿太

女子団体	1回戦	1—6 東陵(宮城)
女子個人戦 シングルス	1回戦	0—3 東陵(宮城)
田村優歩	1回戦	0—6 仙台育英
第47回 MAYA ホールデイン	1回戦	6—18 仙台一
ゲス東北ジュニアテニス選手	1回戦	6—18 仙台一
権大会	1回戦	6—18 仙台一
18歳以下男子シングルス	1回戦	3—8 岩手
加藤柊羽	1回戦	3—8 岩手
島貫夏成	1回戦	6—18 仙台一
18歳以下男子ダブルス	1回戦	6—18 仙台一
加藤柊羽・太田 泉	2回戦	8—2 岩手
16歳以下男子シングルス	1回戦	8—5 菊地駿太
(ウェイニングショット)	2回戦	8—2 (ウェイニングショット)
3回戦	6—3、6—3	(東陵)
準決勝	2—6、6—2、	
3—6 (FTTC橋Jr)		
ベスト4 (全国大会出場)		
人見竜聖		
1回戦	8—0	
(ウェイニングショット)		
2回戦	9—8 (4)	
3回戦	6—7 (4)、1—	(BTA)
6 ベスト8		(青森山田)
八島柊人		

1回戦	8—5 (Antelope)
2回戦	1—8 (磐城)
16歳以下男子ダブルス	
人見竜聖・(他校生)ペア	
1回戦	7—9
(盛岡第一・盛岡第四)	
18歳以下女子シングルス	
田村優歩	
1回戦	2—8 (八戸大二)
▼令和7年度全国高等学校総合体育大会 (7/28—8/4)	
福山市竹ノ端運動公園庭球場・こざかなくんスポーツ	
パークびんご	
男子団体	
1—2 海星学院 (北海道)	
男子個人戦シングルス	
菊地駿太	
1回戦 1—6 四日市工 (三重)	
男子個人戦ダブルス	
加藤柊羽・太田泉ペア	
1回戦 0—6 凤凰	
(鹿児島)	
▼第29回県北地区ジュニアシングルステニス選手権大会 (8/2—3) インテックテニスガーデン	
女子シングルス	
1位 菅野結菜	
▼ユニクロ全日本ジュニアテニス選手権2025 (8/25—9/5) 有明テニスの森公園	
テニスコート	
16歳以下男子シングルス	
菊地駿太	

▼第59回福島県高等学校新人体育大会県北地区予選（8／30—9／1）インテックテニスガーデン	1回戦 1—6、0—6 (やすいそ庭球部)
男子団体／1位	男子個人戦シングルス
1位 八島柊人	育大会（10／5—7）郡山市
庭球場	第59回福島県高等学校新人体育大会（10／5—7）郡山市
男子団体／予選トーナメント	男子団体／予選トーナメント
2回戦 5—0 勿来工	1回戦 4—1 相馬
3回戦 4—1 聖光学院	2回戦 2—3 磐城
決勝リーグ	3回戦 3—2 日大東北
1回戦 4—1 相馬	第2位（東北大会出場）
2回戦 2—3 磐城	女子団体／予選トーナメント
3回戦 3—2 日大東北	1回戦 3—2 安積
第2位（東北大会出場）	2回戦 3—2 会津学鳳
女子団体／予選トーナメント	決勝リーグ
1回戦 0—5 磐城 櫻が丘	1回戦 1回戦
2回戦 1—4 磐城	2回戦 2回戦
3回戦 3—2 福島商業	3回戦 3回戦
第3位	男子個人戦シングルス／1位
男子個人戦シングルス／1位	八島柊人（全国大会出場）
八島柊人（全国大会出場）	2位 島貫夏成
2位 島貫夏成	2位 齋藤朱里、高橋
3位 菊地駿太	1回戦敗退
女子個人戦シングルス	1回戦敗退
2回戦敗退	2回戦敗退
麗花	麗花

令和六年度

部活動を通して学んだこと 教えられたこと

生徒会

本校生徒会執行部では、生徒から寄せられる様々な要望や意見を、評議員会（H.R.長の集まり）やアンケート、意見交換会を通じて話し合い、先生方と連携しながら、これまで校則の見直し、施設・設備の改善、学習環境の整備など様々な問題について話し合ってきました。また、東桜祭やスポーツ大会など生徒会行事の企画・運営をしたり、環境保全への取り組みとしてペットボトルキヤップを回収し、ワクチンに替える活動もしています。

生徒会の魅力は、我々生徒たちが坑内の様々な活動に携わることで、仲間との協力の大切さを学べたり、他の部活動では得られない企画力や交渉力を育てることができるところだと思いません。生徒会活動は一人でできるものではなく、役員一人一人が責任感をもつて活動することになりたつものだということを自覚しながら、全員で協力して活動していきたいです。

(宮崎瑛大)

野球部

私達野球部は個人の技術の向上やチームの勝利を目指して日々練習に励んでいます。普段の練習では限られた練習時間ではあるものの様々な工夫をしながら週末に行われる練習試合で出てきた課題を潰していくけるよう一生懸命練習しています。

私達がこうしてサッカーができているのはこれまで東高サッカー部を築き上げてきた先輩方や、先生、保護者のみなさんのおかげです。これからも新しい東高サッカー部の歴史を作れるように頑張ります。

(東海林貫太郎)

卓球部

私たち卓球部は、毎日決まり

たメニューを練習して上達できるように頑張っています。部員一同も学年関係なく仲が良く、互いに切磋琢磨しながら練習に取り組んでいます。卓球は今まで練習してきたことの積み重ねが結果に反映されやすい点や、最後まであきらめずに戦いぬく強い気持ちが育てられるのが魅

力です。そのように練習を続ければ、以前行われた新人戦では団体は男女共に県大会、個人戦も何名か県大会に進むことができました。このような結果にすることができたのは、チームの絆が強く、本番でアドバイスし合

(梅宮佑青)

サッカー部

私たちサッカー部は部員43名で毎日の練習に取り組んでいます。県ベスト4以上、そして昨年に引き続き西部サッカー場でプレーすることを目標に一生懸命頑張っています。

サッカー部の魅力は、全員が目標を達成するために努力しているところです。どうすればゴールまでもつていけるかを考え、コミュニケーションを取りながらプレーをしています。

私達がこうしてサッカーができているのはこれまで東高サッカー部を築き上げてきた先輩方や、先生、保護者のみなさんのおかげです。これからも新しい東高サッカー部の歴史を作れるように頑張ります。

陸上部

陸上競技部は心身ともに鍛えることができ、仲間と競争心を高めることができます。この部活動です。

陸上競技部は日曜日以外の週六日活動しており、競技場で走る練習をする他、学校でウエイ

トトレーニングなどの筋力をつける練習を行っています。長年競技を行っている人や、高校から競技を始めた人など幅広い層で活動していく互い教え技術を高めています。この部活動の魅力は個人競技のため一人一人が仲間であると同時にライバルなので緊張感をもつて練習を行なうことができます。また結果を

私達は「チーム」について考

えることがとても多くあります。チームのためにとはどういふことなのか、チーム一丸とは、と皆で議論し試行錯誤をしながらチーム力の向上に努め、お互

いを称え合えるチームにしていきます。

これから様々な事が起こりますが、先輩方が築きあげてきた伝統を受け継ぎ、歴史に新たな一ページを加えていきた

バスケットボール部（男子）

私達男子バスケットボール部は二年生十一名、一年生十五名で活動しています。県ベスト4を目標に日々練習に励んでいます。

力です。そのように練習を続ければ、以前行われた新人戦では団体は男女共に県大会、個人戦も何名か県大会に進むことができました。このような結果にすることができたのは、チームの絆が強く、本番でアドバイスし合

け、以前行われた新人戦では団体は男女共に県大会、個人戦も何名か県大会に進むことができました。このような結果にすることができたのは、チームの絆が強く、本番でアドバイスし合

ができます。

私達チームの目標は一人でも多く上位大会に出場することです。これからも応援よろしくお願いします。 (齋藤周真)

バスケットボール部（男子）

私達男子バスケットボール部は二年生十一名、一年生十五名で活動しています。県ベスト4を目標に日々練習に励んでいます。

力です。そのように練習を続ければ、以前行われた新人戦では団体は男女共に県大会、個人戦も何名か県大会に進むことができました。このような結果にすることができたのは、チームの絆が強く、本番でアドバイスし合

ができます。

私達チームの目標は一人でも多く上位大会に出場することです。これからも応援よろしくお願いします。 (齋藤周真)

いです。

(大河龍空)

バスケットボール部(女子)

私たち女子バスケットボール部は、岩倉先生、善明先生、栗村先生の御指導のもと、二年生五名、一年生七名で、県大会ベスト十六を目指して日々の練習に励んでいます。

私たち部活動を通して、技術の向上だけでなく、部活動を通じて、礼儀や感謝など人として成長することに力を入れています。また、一年生、学年関係なく仲が良く、目標に近づけるように、意見を交換し合える部活動です。そのため、部員間でコミュニケーションを取りることを大切にしています。

私たちが部活動をできているのは、保護者の方や先生方、OGの方々の支えがあります。こそだということを忘れずに、目標である県大会ベスト十六に向かって、日々練習に励んでいきたいと思います。(加藤絢菜)

バレーボール部(男子)

私達男子バレーボール部の魅力と特徴は、お互いのことを勉強やバレーボールでライバルとして意識しているということです。

バレーボール部(女子)

私たち女子バレーボール部は毎日明るく楽しく、本気で練習を取り組んでいます。現在は顧問の先生と副顧問の先生に加え、外部コーチの方の指導の下、県大会ベスト8を目指に活動しています。女子バレーボール部は基本的な礼儀を大切にしている部活動だと私は思います。先生方や先輩方から教わった大きな声での挨拶、周りへの気遣い、

学年を越えて互いを尊敬しているからこそ、ライバルとして高め合えるのだと思います。ですが部活が終われば皆で笑って飯を食べに行くような仲でもあります。メリハリがきちんとしているのも魅力です。

そして男子バレーボール部の魅力は、全員が試合で勝つことに本気なので、その思いを皆で共有できる環境にあることです。互いを尊敬し信頼しているからこそできることですし、そのおかげで日々成長できていると思います。僕はこういつた

チームの中でキャプテンとして毎日バレーができるのを何より幸せに感じています。このチームで良い結果をお世話になつた方々に報告できるよう頑張ります。(石田智久)

テニス部

東高の強みである粘りのバレーで常に笑顔で全力でプレイし見ている人が応援したいと思えるようなチームを目指しこれからも元気に活動していきたいです。

(佐々木望愛)

学校生活での態度を忘れず生活することを心がけています。また、学年関係なく交流が深くとも仲の良い部活動です。そのため言いたいことがあつたらお互いに言いやすいような雰囲気づくりをすることができています。

ハンドボール部

私たちハンドボール部は、現在部員十九名で日々県優勝、上位大会進出という目標を達成するため活動しています。

(島貫夏成)

現在のハンドボール部は、一回の練習毎に全員で士気を高め合い良い空気感、雰囲気で勝ちにいく練習ができるという長所があります。ですが、まだまだ短所や未完成な部分も多いため、その壁から逃げることなく一つ一つ乗り越えていきたいです。東高校ハンドボール部の先輩方から代々受け継がれてきた横断幕、「東魂」という言葉を胸に、周りへの感謝を忘れず過去の先輩方が残した数々の偉大な記録を越えていけるような良い結果を自分たちが残すことができるよう、これからも一日一日の練習を大切にし一戦必勝であります。これからも東高校ハンドボール部の応援をよろしくお願いします。

私たちテニス部は毎日の部活動や大会を通して様々なことを学んきました。その中で特に大切だと感じたことは自分の課題を明確にするということです。試合などでミスをしたときどうしてミスしたのかどうすればよかつたのかを考え、また同じような状況になつたときに対応できるように練習を行つています。

また仲間とここはこうすると良いと互いに意見を出し合うことで新しい課題を見つけ、さらなる技術向上を目指しています。

経験となりました。

部活動などを行なう上で保護者や先生方の協力は必要不可欠です。支えてくださる方々への感謝を忘れずにこれからも頑張ります。

バドミントン部

我々、バドミントン部は五人で活動しています。

バドミントン部は四十五人で三コートという、正直、厳しい練習下の環境で活動しています。

そんなバドミントン部の良さは一人一人が多方面に優れています。統率することに長けている人もいれば、その場その場で適確なアイディアを出すことが多いですが、指示もすぐに通じたことはありません。

そして、我々、バドミントン部の目標は団体戦で県大会に進むことです。もちろん、個人戦で勝ち進むことも大事ですが、人数が多いがため、全員がメンバーになることのできない団体戦で部の思いを背負つて勝ち進むことに意味があると考えています。

今後とも、バドミントン部の応援をよろしくお願いします。

(伊藤温人)

柔道部

私達福島東高校柔道部は、一年生初心者二名、二年生初心者一名経験者一名の計四名で活動

しています。東高柔道部はウエイトトレーニングにも力を入れており、月水木土の四日間柔道に取り組み、火金の二日間ウエイトトレーニングをしています。週末は会津や山形へ出稽古によくいきます。練習はとてもキツく辛いですが、ライバルや仲間がたくさんでき青春つて感じがして楽しいです。インターハイや新人戦が終わると東北大学で行われる青葉杯や筑波大学で行われる川村禎三杯などにも参加することができるため、他の高校よりも全国の選手と競い合える機会が多くなり、より高いモチベーションをもつて一年間を過ごすことができます。部員が四人と少ない中ですが顧問の佐々木先生のご指導のもと、福島東高校柔道部として精力善用、自他共栄を胸に良い結果を出せるようがんばります。

三人でやっているために出稽古が多くなり、他の高校との練習で様々な相手や先生と練習できることです。多種多様な相手と練習することでいろんな種類の剣道タイプを知ることができます。二つ目は、三人という少なさだからこそ、仲がいい所です。男子二人女子一人ですが、日々仲良く活動することができます。一年生がない寂しさもありますが、楽しく活動できています。

最後に、来年は一年生が入つて男子も女子も再び団体戦に出ると信じてこれから頑張ります。

(荒川大知)

山岳部は登山を通じて、自然と向き合い、体力や精神力を鍛えパーティのメンバーで協力したり、山の自然を学びます。また、季節に合わせて登山計画を立てます。登山技術の習得のために、地図の読み方や気象の知識、天気図の作成などがあります。山に登る仲間と頂上に登つた達成感や、山頂からの景色は何事にも代えがたい魅力があります。現在、東高の山岳部は少人数で活動しています。そのため、登山の準備などをするのは今の人数では大変です。ですが、人数が少ないからこそ一人ひとりの存在が大切であり、責任感をもつて活動することがであります。仲間と協力して挑戦で間が一緒にになって原因を考え、自分の納得いくまで練習を手伝ってくれることで的中に繋がることができます。これからも楽しさと協力して活動を続けることがあります。それからも楽しさと周りへの感謝の気持ちを忘れず部活動に励んでいきたいです。

きることが山岳部の魅力です。（内田凌斗）

合唱部は、「東の声」を届けるため、数々のイベント、コンクールに参加しています。東高の合唱部はとても仲が良いです。学年、性別問わず、仲が良いため、合唱でもみんなの声がうまく重なり、バラバラにならず、一つの音楽を奏でることができます。その原動力は質の高い練習です。顧問の佐藤朋子先生による、一人一人への発声指導により、自分の改善点を早く、明確に理解することができます。顧問の先生がいないときでも、部員みんなで、自発的に練習をすることができます。合唱をやったことがない人でも東高校の合唱部に入れば、合唱や歌うことがとても好きになるし、とても上手くなりります。そんな環境を作り続けています。その魅力ある部活です。

夏季には県北地区デッサン講習会や実技講習会への参加、福島県高校美術展に向けた制作です。そして、年度末には一年間の成果を発表するため美術部が主催する桜美展があります。その他にも、美術館や博物館などを巡る東京への研修旅行があります。自身の制作に活かせるものを見つけることのできる大変良い機会になるため、毎年部員が楽しみにしています。

また、三年に一度の東桜祭では学芸員、生徒会役員とともに美術部員がデザインしたモニュメントを制作し、好評いただきました。

東高美術部の魅力は、一人一人がのびのびと制作できる雰囲気だと思います。表現したい世界観や制作するベースも違う中で、アイデアを出し合い、時に協力することで互いに成長することができます。

で、一般の方々にも展示した部員の写真を見ていただきました。先輩方、先生方は、お写真を見ていただけたでしょうか。さて、毎年行われていた撮影技術講習会ですが、今年は行わませんでした。写真部で唯一遠征らしいものができる機会なのでみんな少し残念がついていました。また、今年は福島市の市議会だよりの表紙の写真に東高校写真部が担当になった月があり、三年生の一人が撮った写真が採用されました。写真の発表を通して、部員全員センスあふれる写真を撮つており、今年も素晴らしい部活動ができていると思っています。

が化学室に訪れて実験を体験してくれました。そして、後期は、ふくしまサイエンスフェスタ、研修旅行を予定しています。ふくしまサイエンスフェスタでも、人工いくら作り体験、紙飛行機作り体験を予定しています。今年は地区生徒理科研究発表会で発表することができなかつたので、来年は発表できるよう頑張りたいです。

劇をしているから感じられたことだとことだと思います。また、他者を演じるという経験をしているからか他者の気持ちを考えられる人は多いことも魅力です。

（梅津志龍）

書道部

私達書道部は、より良い作品づくりを目指しながら日々活動を大事にしています。合評とは、部員一人一人が制作した作品を見せ合い互いに意見を出し合い改善点を見つける活動です。自分の改善点が見つかるだけでなく、他の人の作品から墨の入れ方や作品構成など、様々なことを学ぶことができます。また、展覧会での作品鑑賞も行います。普段見ることのできない一般の方の作品から多くの学びを得ることができます。

学年の差もなく、互いに意見を交わしながら、和氣あいあいとした雰囲気で活動しています。日々の部活動を通して様々な表現方法を身につけ、「今日は明日の歴史」となるよう、昨日の作品よりも上達することを心がけながら活動しています。

私たちダンス部「FED」は現在二年生が二十二人、一年生が二十一人の計四十三人で活動しています。さらに、今年で二十代目になります。二人の同好会から始まり、ここまで部活動として大きくなれたのは歴史を築いてきた先輩や顧問の先生、保護者の方や様々な講師の方々の支えがあつてこそだと思います。また、様々なイベントにお呼びいただきて踊させていただいております。発表の機会があることにとって感謝しています。これからもイベントへ向けて部員全員でお互いを高め、仲も深めながら私たち二十代目らしいダンスを作り上げていこうと思います。さらに今の二年生は来年の発表会が最後の部活動となります。そこへ向けての準備を少しずつ進めていき最高の発表会にすることができるよう、全力で努めていきたいと思います。ぜひ応援よろしくお願いします。

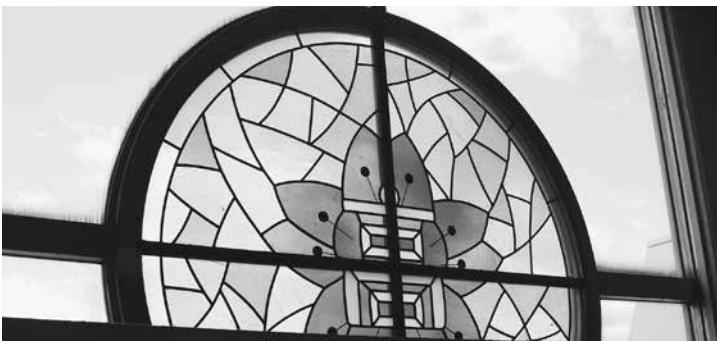
異文化に対する理解を深めていきます。授業とは違った自然な英語表現に触れられるのが大きな魅力です。時々最近のニュースや文化などをテーマにディスカッションをすることもあります。また、海外の映画を見て実践的に英語力を高めて、まず第一に楽しむことを大切にしています。自分の意見を英語で伝える難しさを感じる一方で、仲間と意見を共有したり文化の違いを考えたりする楽しさも実感します。

こうした活動を通して、外国语をツールとして人とつながる喜びや相手に思いを伝える大きさを毎日学んでいます。今後も国際交流を楽しみながら、コミュニケーション力を高めていけるべきだと思います。

(井上佑人)

応援ブラン

私たちちは主に応援を行つてゐる野球部だけではなく、サッカーブ部やハンドボール部など他の部活動の応援もすることができました。今年度は三年生が引退したため慣れない中での応援でしたが、部員どうしでコミュニケーションをとりより良い応援をするための練習をすることができ



ました。二年生が一人と少ない、ドタバタしてしまうことがありましたので本番の前にしっかりと手順を確認してスムーズに進められるように心がけていました。また、どうすれば音の響きが良くなるのかやどうすれば持続力を高められるかなどを追求しながら応援を頑張っていました。私たちの応援がしっかりとしていなければ試合の力になりません。少しでも選手のみなさんの力になれるように部員で協力して応援を頑張ります。

(木村凜音)



昨年度より「高等学校DX化推進事業（DXハイスクール）」採択校へ指定されました。それに伴い、令和9年度より教科「情報II」を受講する生徒により興味関心を持たせること、受講をしない生徒もこれからデジタル社会を生きるためにどう情報が活用されているか関心を持つてもらうことを目的として、先日本校OBの浅野紘太さん（20期生）に講演を行つてもらいました。

度より教科「情報II」を受講する生徒により興味関心を持たせること、受講をしない生徒もこれからデジタル社会を生きるためにどう情報が活用されているか関心を持つてもらうことを目的として、先日本校OBの浅野紘太さん（20期生）に講演を行つてもらいました。

卒業生から学ぶ

行つていただきました。



昨年度より「高等学校DX化推進事業（DXハイスクール）」採択校へ指定されました。それに伴い、令和9年度より教科「情報II」を受講する生徒により興味関心を持たせること、受講をしない生徒もこれからデジタル社会を生きるためにどう情報が活用されているか関心を持つてもらうことを目的として、先日本校OBの浅野紘太さん（20期生）に講演を行つてもらいました。

「ものづくりとまちづくり」建築・建築以下の活動／デジタルファブリケーションに

ついでー
浅野さんには、同窓会会報13号（平成29年3月発行）でもご寄稿いただいております。



福島東高校の卒業生から学ぶ

自分をデザインすることの面白さ

アサノコウタ二十期生

「建築の夢は？」という質問をしてみると、多くの学生は「〇〇になりたいです」と回答を答えることが多いと思われます。

私も高校時代を振り返ると、自分自身も高校時代を振り返ると、「建築家になる」と宣言していました。確固たる「業への憧れはもちろん素晴らしいと思いまが、当時に比べて現代の社会では「業」という活りではない人生の選択、仕事の仕方、夢のかたちが存在していると思います。

それはSNSや多機能なメディアによつて個人による発信が容易にできるようになり、収益を得る方法も会社に所属してお給料を貰うだけではなく、勤務時間が個人で選択できるようになつてきています。様々なライフスタイルを追求できるようになりました。

今年度は、私自身、「この自分に期待すること」とそれが

「業は？」と尋ねられるときはしばしば困ることもあります。

建築家、デザイナー、アーティスト、大学講師、ラジオパーソナリティ、復興活動、イベント企画、等々、その全てが私自身の活動です。「一兎を追う者は一兎をも得ず。」ということわざがありますが、これから社会生も可能となります。むしろ、そのような人生を選択するには様々な問題も解決していく必要があります。ですが、そういった経験を積み重ねることで自分自身をデザインしていくことがで身をデザインしていくことがでるはずです。デザインと聞くと専門的なイメージを持たれるかもしれません、そのようなことはありません。理想をかたちづくること、それがデザインです。自分自身が思い描く理想の自分、をイメージすることで、五年後や十年後、二十年後の自分に期待すること、それが

編集後記

福島東高校同窓会会報の第22号の発行にあたり、御多用の中同窓会関係者の皆様から、原稿や資料を御寄稿頂きまして厚く御礼申し上げます。

昨年度に同窓会役員の体制が刷新されたことに伴い、今年度は「同窓会名簿作成」、「同窓会報の見直し」を行いました。特に、この同窓会報につきましては、昨年度よりお知らせしたとおり、印刷代・郵送代の高騰に伴い、冊子版のページ数の減少と会員の皆様へは縮小版をお送りすることとなりました。会員

の皆様の中には「紙での」会報を楽しみにされてた方もいらっしゃったかと存じますが、ご理解いただけますようお願いいたします。

さて、本校では今年度の入学生(46期生)より、1日7校時から6校時授業(授業時間週30時間)と大きな変化がありました。

高校時代、7校時の授業に食らいつきその後疲れ果てるまで必死で部活動に取り組んだ経験のある同窓生の皆様にとつて、「1日6校時」は想像のつかない変化かと思われます。授業時間数が減少したことにより、どのような変化が起こるかは誰にも予想はできません

が、これまでとは生徒の学び方も変わっているため、この変化が生徒にとってプラスに働くような体制作りや環境づくりも必要となります。

その一つとして、2・3学年が7校時まで授業を行う中、1学年は6校時終了後から「自己探求の時間」という新たな取り組みを行い、1学年の担任団も日々試行錯誤をしながら指導にあたっております。実際にこの時間で過ごしている1年生の多くは、この時間に学習(課題や授業の予習復習)や探究活動に取り組むことができるため、7校時授業よりも余裕があつて良いという意見もあります。

今後も、検証を重ねながら、様々な案や意見を出し合つて、この取り組みをアップデートしていくとは思いますが、アップデートをする中で、今後生徒の探求活動の一環として学校外の様々な企業や、官公庁、公的施設へ赴き、直接社会と繋がるような取り組みも出てくるかもしれません。もし本校の生徒が、同窓生の皆様のもとを訪れた際には、お力添えをいただければ

と存じます。

今年度は、本校のDX化に伴う「情報」に関する講演会、「職業に関する講演会(職業人に聞く)」といういくつかの講演会で私の同級生の力を借りしま

した。急な依頼にも関わらず、快諾いただけたことが非常にありがたく、改めて同窓生の繋がりの大切さを強く感じることができます。次年度以降も、福島県内外問わず、社会で活躍する同窓生の皆様にもぜひ本校へお越しいただき、後輩へ直接エールをいただければ場を設定したいと思っておりますので、ご協力いただけますと幸いです。結びになりますが、同窓生の皆様方におかれましては、今後とも本校の教育活動に対し、御指導・御支援賜りますようお願い申し上げます。

(20期生 羽田 真幸)

令和7年度 転・退職出者

職名	氏名	教科	前勤務先
教諭	梅宮 康弘	国語	退職・継続
教諭	佐藤直子	国語	退職・継続(再任用短時間)
教諭	阿部秀男	保健体育	退職
教頭	森敏行	英語	いわき市立草野中学校
教諭	齋藤克幸	保健体育	安達高等学校
再任用教諭	加藤聰	数学	退職・継続
再任用教諭	安齋雅高	芸術(美術)	退職(伊達高等学校)
再任用教諭	鬼満亮	数学	退職・継続
常勤講師	南條かおる	英語	退職
月手当講師	菅野和弘	理科	退職・継続
養護助教諭(月手)	平塚知世		退職・継続
時間講師	狩野剛	地歴・公民	退職
時間講師	安藤ゆずな	数学	退職
時間講師	佐藤智恵美	英語	退職
時間講師	富山和美	家庭	退職(福島商業、福島工業定期)
専門員	阿部千春		退職・継続
ボイラー技士兼務員	菅野嘉之		退職・継続
校務員	牧野弘		退職
業務員	菅野秀之		退職・継続
会計年度任用職員	神野藤磨		退職
PTA雇用職員(兼:校長協会雇用職員)	児玉紀子		退職・継続
スクールサポートスタッフ	坂本香織		退職・継続

令和7年度 転入者

職名	氏名	教科	前勤務先
教頭	横田潤	数学	西会津高等学校
教諭	齋藤純一	国語	船引高等学校
教頭	石田智宏	保健体育	川俣高等学校
教諭	橋内聰志	保健体育	安達高等学校
教諭	篠木美恵子	芸術(美術)	福島北高等学校
常勤講師	国分香	英語	安達高等学校
常勤講師	松井あい	英語	
時間講師	菅野雅喜	地歴・公民	
時間講師	吉田典子	数学	あさか開成高等学校
時間講師	齋藤嘉浩	英語	川俣高等学校
主査	西和子		
校務員	渡邊次郎		

令和7年度 教育実習生 (同窓生のみ)

氏名	実習教科	期生
遠藤滉己	保健体育	40期
角田雄生	保健体育	40期